

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
第8回ファカルティ・デベロップメント報告書

平成26年12月

社会健康医学系専攻教務委員会

はじめに

第 8 回ファカルティ・ディベロップメントが成功裡に終了しました事を皆様とともに喜びたいと思います。

今回の FD をご企画いただいた、川上浩司副専攻長、兼 教務委員長、及び関係者の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。また、ご参加の皆様、お疲れ様でした。

今回の FD は、今まで以上に有益なものでした。私どもがいつも講義や実習で頭を悩ませている、効果的なプレゼンテーションの仕方について、きわめて具体的且つ示唆に富むご講義をしていただき、少なくとも私にとっては大きな学びの時間となりました。ご出席者の多くの方々からも高いご評価を伺いました。また講師を務めていただきました宮野准教授のご協力に心より感謝申し上げます。

さて、FD の目的は、大きく二つあると思います。一つは今回のような、教員の教育力、教育技術を向上させる目的です。もう一つ忘れてはならないことは、教育目標全体の見直し、そしてその目標を達成するための教育カリキュラム全体の見直しです。私は 2000 年より社会健康医学系専攻で教員を務めておりますが、このような全体的な目標設定や全体的な教育カリキュラムの見直しを FD で経験したことが有りません。社会健康医学系専攻が 15 周年を迎えようとしている今、非常に重要な事項であると考えております。ぜひ次回の FD にはこの点を考慮したものにさせていただきたいと希望しております。

平成 26 年 12 月

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻
専攻長 福原 俊一

目次

1. はじめに 専攻長 福原 俊一

2. 第8回ファカルティ・デベロップメントプログラム

京都大学学際融合教育研究推進センター

宮野公樹 准教授 講演 (資料)

○「伝わってしまうプレゼンテーション～その思考と技術～」

○SPH 教員の講義資料を用いた赤ペン先生企画 (資料)

○質疑応答

3. おわりに 教務委員長 川上 浩司

第8回ファカルティ・デベロップメントプログラム

場所：医学研究科 G棟2階 セミナー室A

日時：11月28日金曜日 9時—12時

出席者：佐藤、寒水（医療統計学）、福原、山崎（医療疫学）、川上、田中（司）、田中（佐）、堀部、瀬戸、河野、新沢、堀、井内田（薬剤疫学）、田原（ゲノム情報疫学）、今中（医療経済学）、小杉、和田、三宅（医療倫理学）、中山、宮崎（健康情報学）、岩隈（医学コミュニケーション学）、小泉、原田（環境衛生学）、古川、小川（健康増進・行動学）、岡林（予防医療学）、木原（社会疫学）

（敬称略）

プログラム：

京都大学学際融合教育研究推進センター

宮野公樹 准教授 講演

9時～10時30分

○「伝わってしまうプレゼンテーション～その思考と技術～」

10時30分～11時

○SPH 教員の講義資料を用いた赤ペン先生企画

11時～11時15分

○質疑応答

京都大学学際融合教育研究推進センター

宮野公樹 准教授 講演

「伝わってしまうプレゼンテーション～その思考と技術～」

講師 宮野公樹 准教授

- ◆ 名前：
 - ◆ 宮野 公樹 (ミヤノ ナオキ / Naoki Miyano)

- ◆ 所属・役職：
 - ◆ 学際融合教育研究推進センター / 准教授

- ◆ 略歴：
 - ◆ 1996 年立命館大学 理工学部 機械工学科卒。
2001 年同大学大学院 博士後期課程を修了。大学院在籍中 カナダ McMaster 大学留学。
 - ◆ 立命館大学 理工学部研究員、九州大学応用力学研究所助手
2005 年京都大学ナノメディシン融合教育ユニット特任講師
2010 年京都大学産官学連携本部特定研究員
2011 年より現職。工学博士。
 - ◆ 2011 年より文科省研究振興局基礎基盤研究課ナノテクノロジー・材料開発推進室 学術調査官を兼任。
 - ◆ 2011 年 4 月より総長室特命補佐。

- ◆ 専門分野：金属組織学、医療用マイクロデバイス、研究室運営、コーチング、大学戦略、戦略的プレゼンテーション、コンセプトデザイン

京都大学 教育研究活動データベースより

伝わってしまうプレゼンテーション

～その思考と技術～

京都大学学際融合教育研究推進センター准教授

宮野公樹

研究者は自分の考えや成果を相手に伝えなくてはならず、そのためにプレゼンの能力は欠かせない。スライドに語らせ見て分からせるような、まさに伝わってしまうプレゼンの手法を講義していただいた。

ここにこだわりたい！！ 結論

良いプレゼンテーションには、
コンテンツ(中身)とデザイン(外見)
両方に**論理性**が宿る。
つまり…



説明：「人は見た目が9割」などと言われるように、外見が中身を語ることもある。

プレゼンテーションは、 論理性、客観性を学ぶ ツールである。

プレゼン上手は研究上手

「デザインは一番外側の中身」 佐藤可士和氏



説明：研究の内容が優れている・優れていないに関わらず、相手に伝わり理解してもらえることで、その研究が多くの人（特に異分野の人たちなど）に興味を持ってもらえることがある。研究は一人ではできないため、巻き込み力が必要である。自分と他人をつなぐのはメッセージであり、良いプレゼンは相手に主張を伝えるための重要なツールである。

本講座的ねらい

背景

自分と他人とのインターフェイスはプレゼンでしかない。

プレゼンのできばえがあなたの実力として見られます！

本講座的目的

パワーポイントに**デザイン性**を加味することで、より伝わるプレゼンを目指す。

デザインは「演出」ではなく、主張のためのツールである

背景

自分と他人とのインターフェイスはプレゼンでしかない。

プレゼンのできばえがあなたの実力として見られます！

本講座的目的

パワーポイントに**デザイン性**を加味することで、より伝わるプレゼンを目指す。

デザインは「演出」ではなく、主張のためのツールである

「何が言いたいのか」が伝わる方はどっち？



説明：スライドの中にたくさんのカラーが入ると、すぐその部分に目が行ってしまうため、色を使いすぎないことは大事。1文字でも文字を減らすこと。空白があってもいい。

パワポ × デザイン ⇒ 伝わるプレゼン



ポンチ絵は怎なの？

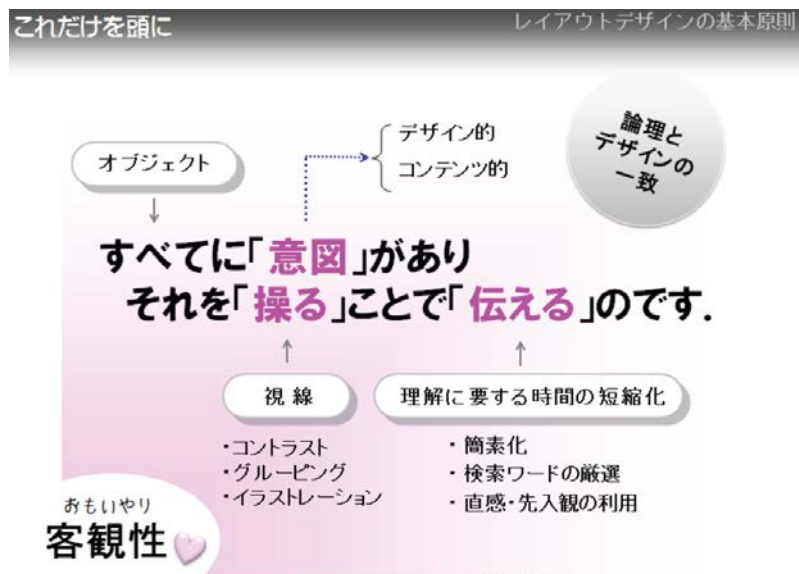
説明：言いたいことが、一番目立つように作成する。空白は埋めたくなるが、あつた方が魅力的に仕上がる場合もある。



説明：ポスターは自分の研究を、背景・目的、方法、結果、考察と1枚にまとめることであり、それ自体を良くすることが、研究自体を良くすることにつながる。



説明：ぱっと見て分かるように作成することが相手に対してより伝わるプレゼンになる。



説明：相手に伝えるために意味のあることをスライドに載せるようにする。それ以外の不必要なものをそぎ落とすことで、より自分の伝えたいことが明確になる。さらに、伝える相手の視線を操る＝例えばコントラストをつけて強調すること、などで、よりぱっと見て分かるスライドになる。結局は相手にお伝えしたい、分かってほしい、いかにわかりやすく伝えるかという分かりやすいプレゼンは、まさに伝える相手に対する思いやりである。

講演の前半では、主にスライドを使った研究発表等のプレゼン資料の作成について、デザイン、色彩、形、レイアウト等々を中心とした説明であった。その中で特に重要な点が下記の項目である。

○写真を使う場合は、できるだけ大きく表示する。

○人は、空白部分を怖がるために余計な情報を入れたがる傾向があるが、そのためできるだけシンプルにするように心がける。

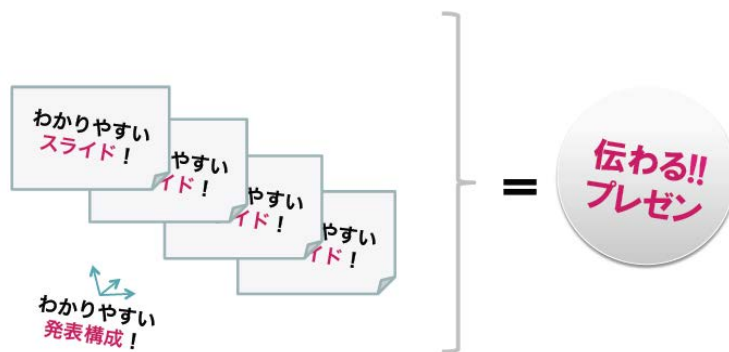
○余計なロゴ（大学、研究機関、所属など）、下線、図などは、逆に言いたいこと、伝えたい部分がどこであるかをわからなくさせてしまう。

○デザインに悩んだ場合には、一度すべての色を白黒にした状態で再考するとよい。

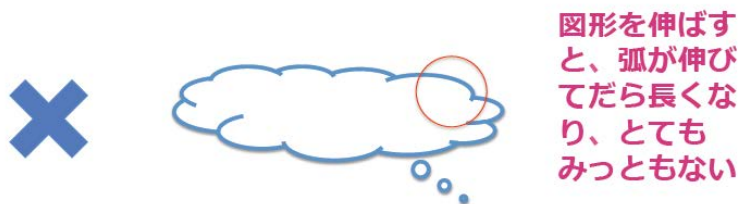
○スライド中のすべてのオブジェクトには、必ず“意図”があり、それを視線で“操る”ことで“伝えること”ができる。この“伝える”、つまり見ている側が理解するための時間の短縮のために伝達内容の簡素化等々が必要となる。

以下、スライド作成時の具体的な部分（図、矢印、形など、色など）についての説明。

これだけを頭に レイアウトデザインの基本原則

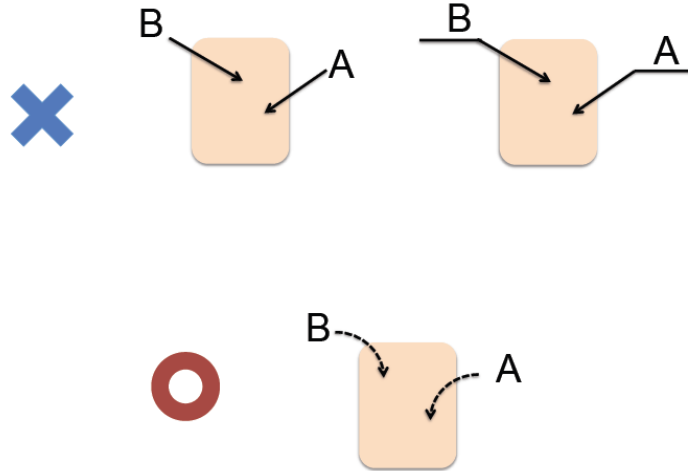


かたちが古臭い・・・



図形を伸ばすと、弧が伸びてだら長くなり、とてもみっともない

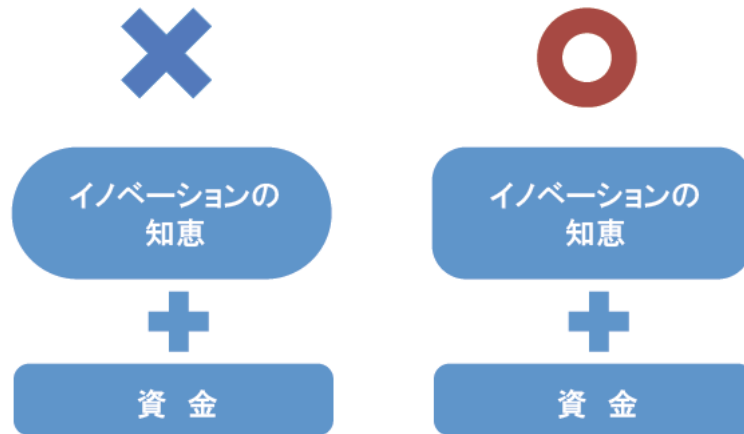
直線が多くなると、本来の図の邪魔になりがち





意味のないグラデーションは100書あって1利なし
みにくい上に、ちょっと古くさい印象をあたえます



角の丸を揃えると、スッキリして見やすくなります



下線を多用したスライドは、とてもみにくい

-  すべての人が現在の生活に不満を感じておらず、
将来の自分の生活に対する脅威がない社会
-  すべての人が現在の生活に不満を感じておらず、
将来の自分の生活に対する脅威がない社会

見出しに二文字の単語を使う場合、
文字間に半角スペースを入れると読みやすい

 科学  科学

キーワードを赤字にするときは全体の5%程度に抑える
(下記の例はスライドではなく配布資料です)

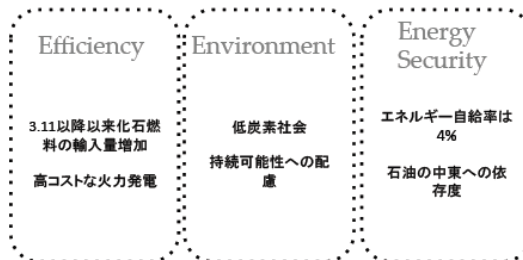


- iPS細胞等を用いた再生医療・創薬の実現に向けた拠点を整備し研究を加速
- 次世代エネルギー利用技術開発
 - ・革新的な次世代蓄電池や、再生エネルギーの貯蔵・輸送・利用技術のプロジェクトを開始します
- レアアースなどの代替技術の研究開発
- 国際熱核融合実験炉(ITER)計画
 - ・国際共同プロジェクトで、エネルギー問題と環境問題を解決する将来のエネルギー源の開発を進めます

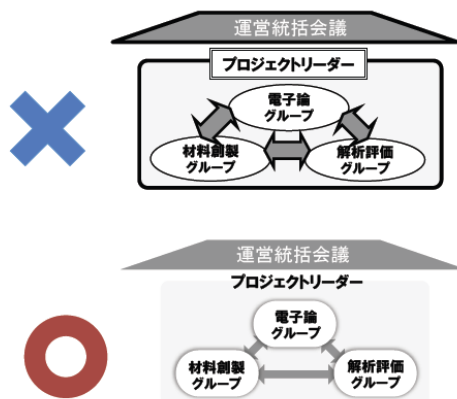


- iPS細胞等を用いた再生医療・創薬の実現に向けた拠点を整備し研究を加速
- 次世代エネルギー利用技術開発
 - ・革新的な次世代蓄電池や、再生エネルギーの貯蔵・輸送・利用技術のプロジェクトを開始します
- レアアースなどの代替技術の研究開発
- 国際熱核融合実験炉(ITER)計画
 - ・国際共同プロジェクトで、エネルギー問題と環境問題を解決する将来のエネルギー源の開発を進めます

点線による強調は目がチカチカした印象を与えて逆効果



文字も図形も囲みを多用すると、必要以上に「線」が目立って、結果的にとても見にくくなる



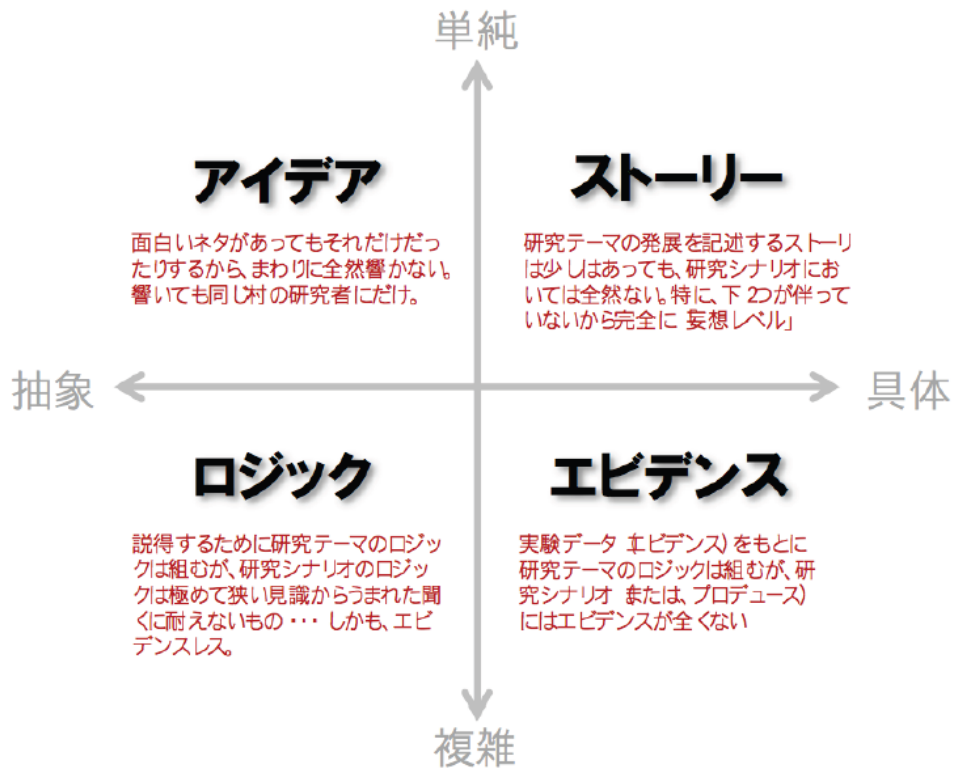
優れた研究のフレームワーク

研究 = 研究テーマ + 研究シナリオ

何をどうやるか？
(科学技術的視座)

どう展開していくか？
(社会経済的視座)

最近の CM が、ドラマになっているようにストーリー性があるとより印象に残る、プレゼンに起承転結を入れて、静止画よりも動画のようにした方が伝わる。スライドを舞台とみなしてもいい。



実験方法に関する問いかけ

オリジナリティはあるか？

- その実験方法はスライドに載せる必要があるの？
- どこにもある実験装置なの？
それとも独自に開発したものなの？
- その方法は一般的なものなの？
それとも独自色が強いものなの？

客観的・論理的か？

- その実験方法（または材料）を選んだ理由は？
- その実験方法で本当に知りたいことがわかるの？
他の方法と比較した結果がその方法なの？
- 今回、その装置のスペックを掲載する必要がある？ ない？
- 今回、装置のメーカー名を掲載する必要がある？ ない？
- そこまで詳細な方法を説明する必要があるの？

正確か？

- ちゃんとプロセスすべてを網羅している？
- 計測誤差は考慮している？
- 薬品の名前、量も正確に掲載している？
- データの参照先は掲載したの？



背景・目的に関する問いかけ

オリジナリティはあるか？

- どこに独創性があるの？
- その問題（目的）は、ほんとに未解明なの？
- 問題設定そのものが新しいの？ アプローチ方法が新しいの？
- 他の類似研究との関係は？
- 先行研究とどこがどう変わったの？

客観的・論理的か？

- 背景の説明が聴衆のレベルと合っている？
- その研究をやる必要性は？ 有効性は？
- 本当にその応用展開につながると思っている？
- その結論の内容と今回の研究目的はつながっている？
- その問題（目的）と実際にやること（手法）がずれてない？
- 結局、「何の問題をどう解くのか」を一言で説明できる？

正確か？

- 「○○」と主張しているが、それは本当か？ 根拠はある？
- 「○○」と主張しているが、本当にそれだけ？
他にもあるのでは？
- 数少ない根拠で問題設定をしていない？
- 解決しようとしていることは問題の一部なの？
あるいは全部なの？



文字や数字、配色に関する問いかけ

文字や数字

- 文字だらけになってない？
- 安易に箇条書きに頼ってない？
- 文字サイズは40ポイントが標準になってる？
- 書体は選材適所で使い分けてメリハリを付けてる？
すべて同じ書体になってない？
- 汎用性の低い書体を使ってない？
- 丸ゴシック体を使いすぎてない？
- 余計な行頭記号を使ってない？
- 無意味な派手な文字装飾機能を使ってない？

配色

- ベース色、メイン色、アクセント色を使い分けている？
- 色数が多すぎない？
すべてのスライドで色使いに統一感がある？
- 無意味なグラデーションを使ってない？



デザイン的手法に関する問いかけ

コントラスト

- 一番言いたいことはどこ？
どこもかしこも目立ってしまっていない？
- スライドのどこから見たらよいかをわかりやすくしてる？
目線が泳がされてしまうことはない？
- キーワードを厳選して目立つ色にしている？
その箇所が多すぎない10%以下におさえてる？

グルーピング

- ごちゃごちゃしていない？ 揃えられるところが揃えてる？
- 空白を無理に埋めていない？

イラストレーション

- 読むのに時間がかかる、文字だけのスライドになっていない？
- 使用している写真や図、イラストは本当に必要なもの？
- かっこいい背景写真を使って満足してしまっていない？
主張している内容が、背景写真に見合うものになっている？
- 論理展開はわかりやすくなってる？
論理展開を図で説明してる？



最後に

もっともっと、 ドキュメントに語らせましょう!!

『伝える→伝わる→伝わってしまう』
伝わってしまえば、必ず反応が返ってきます！
そうすれば、もっといろんなことが
「楽」になります！

ご静聴ありがとうございました！

宮野公樹

京都大学学際融合教育研究推進センター
宮野公樹 准教授 企画

「SPH 教員の講義資料を用いた赤ペン先生」

概要

SPH 教員が実際に用いたプレゼンテーション資料（学会発表「脳クレアチン欠乏症への取り組み」、講義「疫学指標」、講義「行動科学」）を用いて、プレゼンテーション資料の添削を宮野先生にして頂いた。全体で 100 枚を超える資料枚数であり、添削内容は多岐にわたるものであったが、例を挙げるとタイトルのレイアウト・フォントサイズ（図 1）、図を用いて解説する場合のレイアウト等の工夫（図 2、3）、写真の効果的利用とアニメーションの利用について（図 4）、複数概念の関係性を解説する場合のテクニック（図 5）などの改善点が指摘された。

図 1. タイトルのレイアウト・フォントサイズ

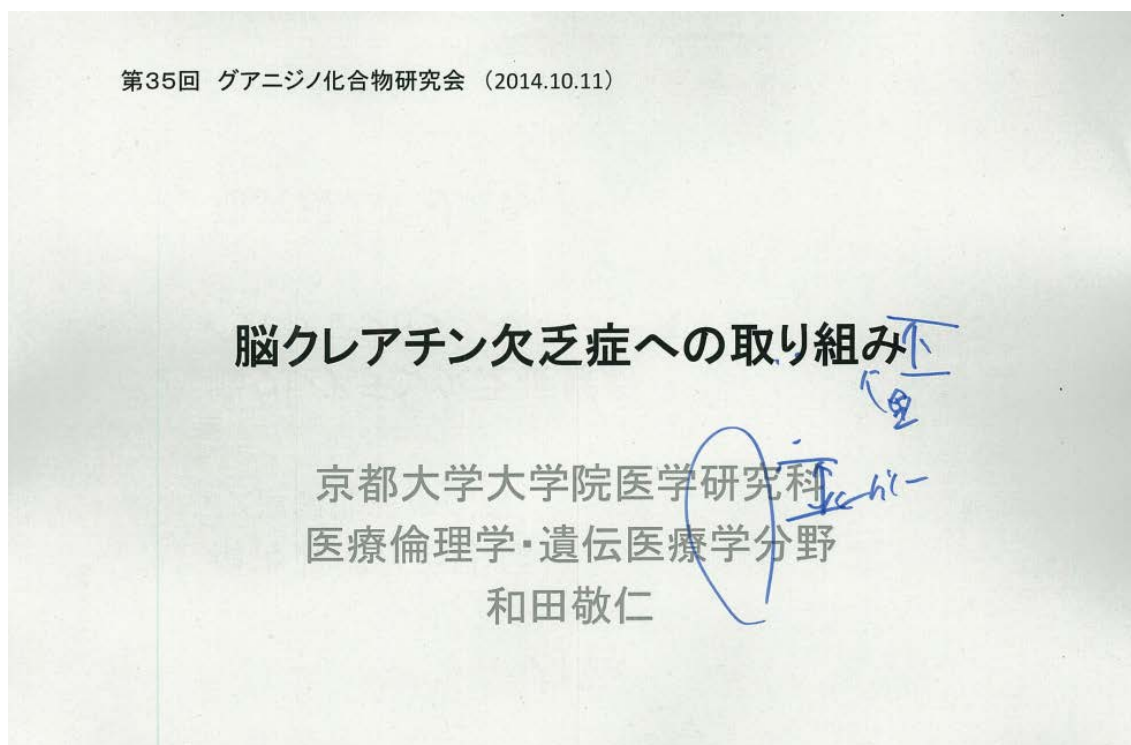


図 2. 概念図を用いて解説する場合のレイアウト等の工夫

精神遅滞 (Mental Retardation)

(精神障害の診断と統計の手引き: DSM-IV)

1. 明らかに平均以下の知的機能
2. 適応機能の欠陥または不全が存在
 - コミュニケーション、自己管理、家庭生活、社会的・对人的技能、地域社会資源の活用、自律性、発揮される学習能力、仕事、余暇、健康、安全
3. 発症が18歳以前

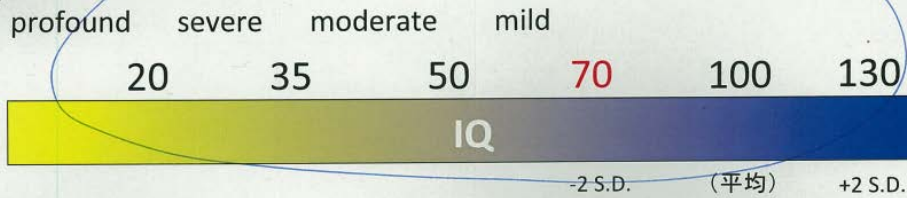
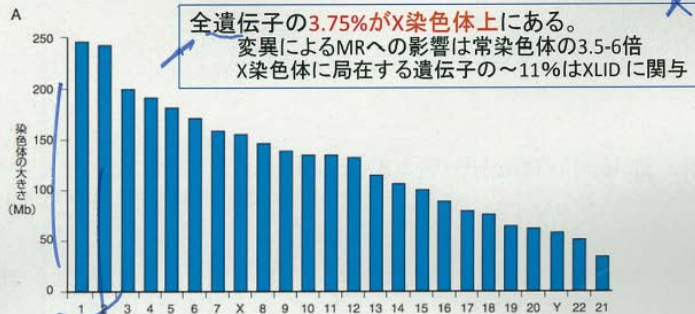
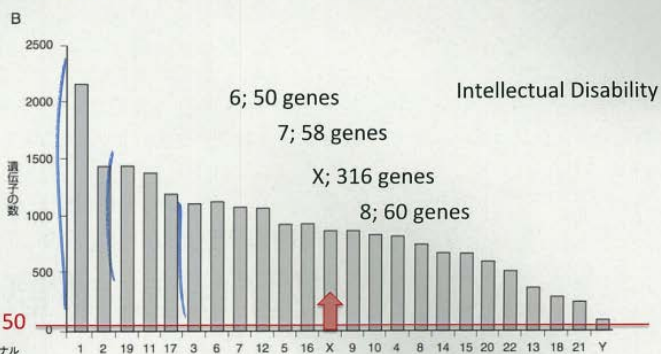


図 3. グラフを用いて解説する場合のレイアウト等の工夫

図2.8



全遺伝子の3.75%がX染色体上にある。
 変異によるMRへの影響は常染色体の3.5-6倍
 X染色体に局在する遺伝子の~11%はXLIDに関与



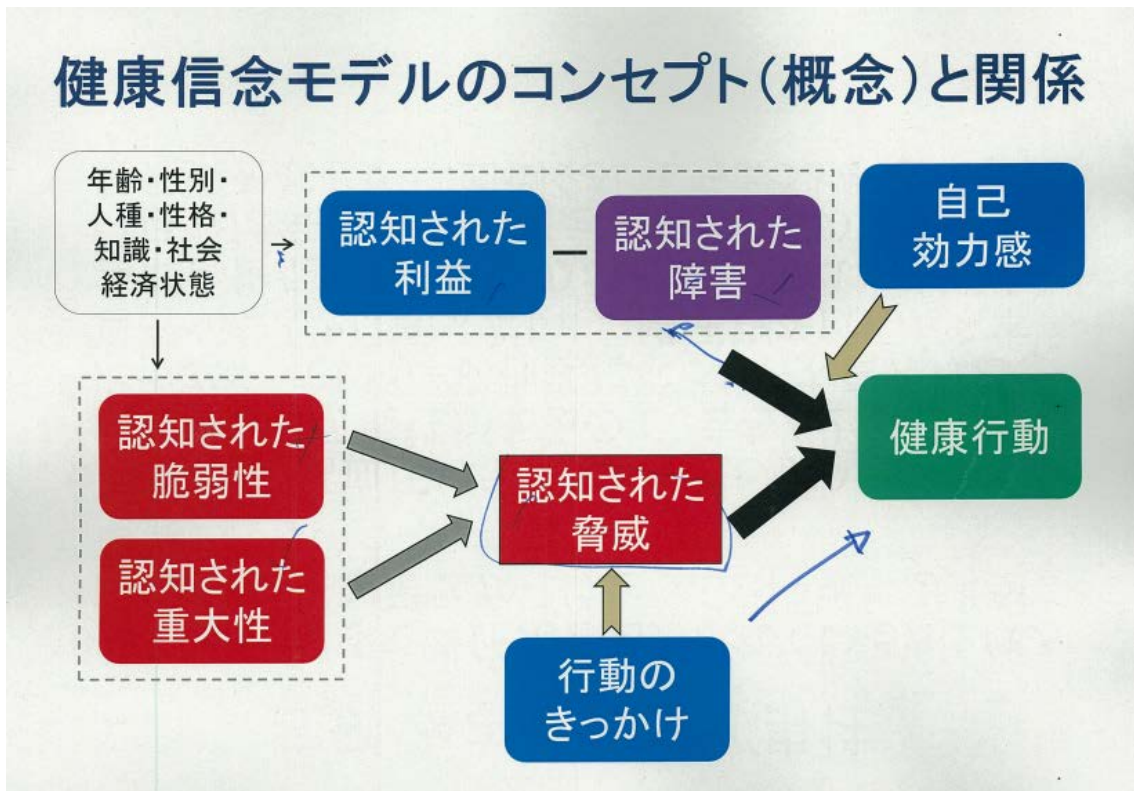
『トンプソン&トンプソン遺伝医学』
 © 2009 メディカルサイエンスインターナショナル

図 4. 写真の効果的利用とアニメーションの利用

中国の大気汚染 (2013年1月以降、国際問題化)

- PM2.5汚染が深刻な中国上海が完全に世紀末 / 晴れの日の昼間だとは思えない(2013年12月26日17時03分)
- 深刻な大気汚染問題を抱える中国。2013年12月26日、上海市でPM2.5の濃度がかなり高まった。現地晴れの日の昼間だというのに、オレンジ色の霧(もや)がかかり・・・

図 5. 複数概念の関係性を解説する場合のテクニック



講演終了後の質疑応答

Q. 学生に講義をする時に、ぱっと見て理解するような資料ではなく、学生に考えてもらう資料を作りたいのだがどうすればいいのか？

A. 考えてもらうためには何か問いがある。「問いをうまく伝える」という観点でスライドを作るようにする。

Q. 講義として話をする時に何かを伝えなければならないが、一定の時間を自分が責任を持って何かをやるときに、問題解決型の講義は、バックグラウンドの知識がないと考える事が厳しい。どうしようにしたらいいのか？

A. 言わなければならない事を座学的にする講義もあるが、今は **active learning** が流行っている。ディスカッションが大事なので、何かを考えさせようと言うこともできるが、簡単に低いレベルや、自分と関係ない話、しゃべってもどうしようもない話などは、意味がない。メンバー等も含めて検討する事が不可欠。

Q. 聴衆（子ども、お年寄りなども含める）によるテクニック等があれば教えてほしい。

A. 聴衆の問題意識から始める。「なんで来たのですか？」と直接聴衆者、主催者に聞く。その情報を持って準備する事が大切。特にイントロダクションが大切。回って歩いて話をする、質問をすると、聴衆者に緊張して満足度が下がるというデータがある。授業やるというよりも場を作るという認識で講義をするといい。BGM を流すという方法もある。

A. 講演でもつかみが大事、自己紹介の場面はとても大切。この場所はしゃべってもいい場所なのだという事を記憶させる。人数が少ない場合は1人ずつしゃべってもらう、班になってももらった時も簡単な自己紹介をしてもらう、今日遠くから来た人、携帯のストラップが長い人、誕生日が一番早い人などでちょっとプライベートの情報を組み入れると話をしやすくなる。

Q. 図はどうしたらいい？ 図はうまくないといけないか？

A. 写真でもいい。写真をバックに、Yahoo の見出しは 13 文字になっているように、文章を 3 行までにするなど決まりを作る。

・Google で「図」を画像検索する。検索ツール→ライセンスから無料で使用できる画像を使う。

- ・ いい画像を取るには日本語ではなく英語で検索する事も手法（秘密）。
- ・ 図は購入してもいい、同じ作家のイラストを使う事でまとまりが出る。

Q. 赤が使えないのは世界共通の認識なのでしょうか？

A. 色盲の方は、濃い赤が黒に見えてしまう。マゼンダが入ると、紫の成分が入ると見えやすくなるという事がある。色覚特性の見え方に変えるツール等もある。

- ・ 「メイリオ」のフォントは横幅があるが使いやすい。

Q. 昔より今はシンプルが流行っているが、次はどのようなスライドが流行るだろうか？

A. これからは「こころ」の時代が来る。「いいね」とされるようなもの。見えないものに価値がある。

当日の様子

教務委員長 川上浩司より



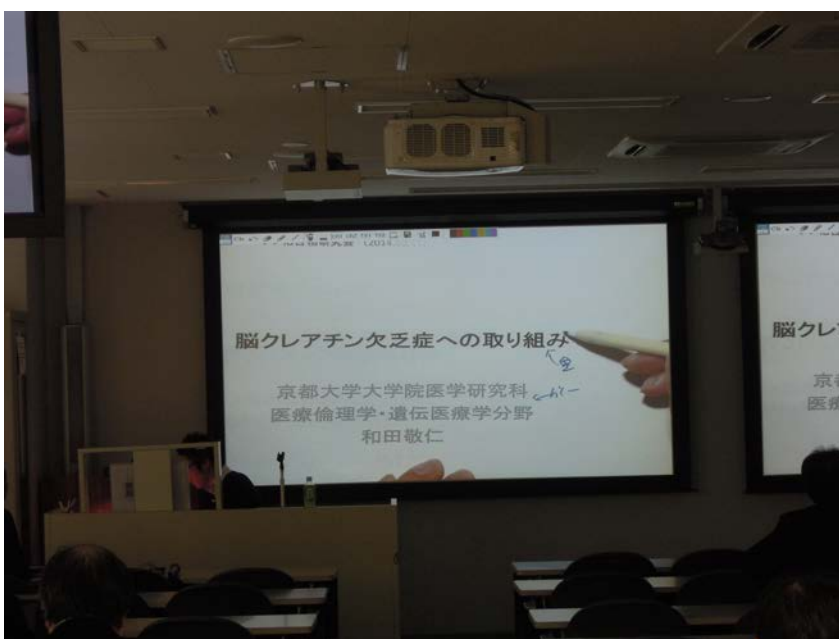
宮野公樹先生ご講演-1



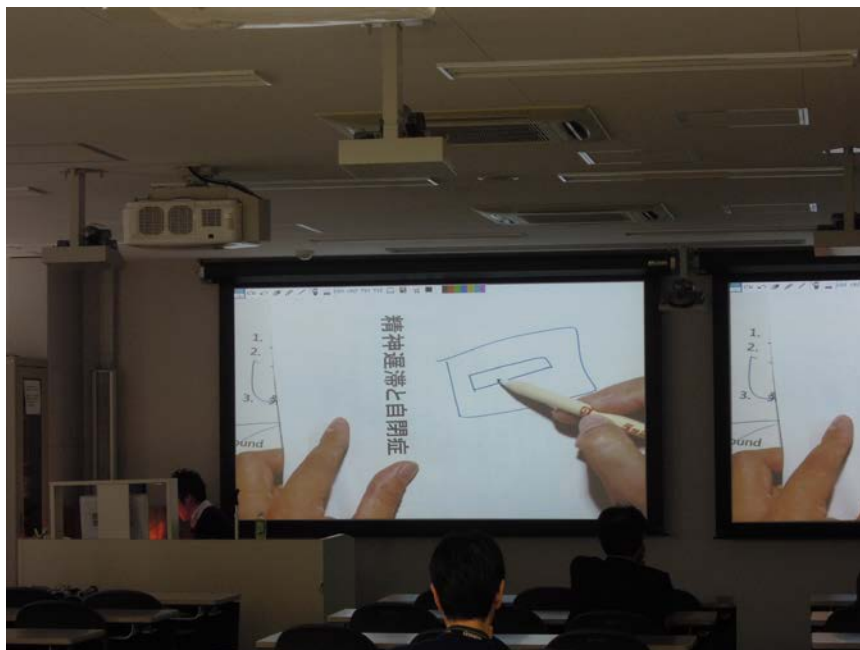
宮野公樹先生ご講演-2



SPH 講義資料の赤ペン添削企画-1



SPH 講義資料の赤ペン添削企画-2



SPH 講義資料の赤ペン添削企画-3



ご講演終了後の質疑応答



おわりに

昨年度のFDでは、ベストティーチャー賞受賞講演として、医療統計学分野の佐藤俊哉教授から講義の工夫に関する内容でご講演をいただきました。

今年度は、京都大学学際融合教育推進センターの宮野公樹先生から、講義、研究発表および進捗報告等あらゆる場面で必要不可欠なプレゼンテーションに関するご講義をいただきました。パワーポイントを用いた図表や研究報告の作成について、いかにわかりやすくかつインパクトのあるプレゼン資料にするかという内容は、普段なかなか聞く機会のない講義内容でありました。また、今回はじめて、社会健康医学系専攻の先生方が実際に使用されている講義資料を用いて、赤ペン先生企画ということで、宮野先生から良い点および改善点をその場でご指導いただきました。実際の講義資料を用いた、添削企画は、具体的でわかりやすく、今後の講義資料のブラッシュアップにも大いに役立つ内容であったと思われます。

参加者、27名は、普段なかなか聞くことのできない内容やご講義中の具体的かつ明確なブラッシュアップのための理由に大いに興味を示しており、ご講義終了後も先生方から活発な質疑応答が行われました。今年度のFDの内容が、これからの社会健康医学系専攻の講義のさらなる質的向上だけでなく、学生の発表の質の向上にもつながることを大いに祈念いたします。

2015年1月
社会健康医学系専攻
教務委員会委員長
川上 浩司

2014年度教務委員会（五十音順）

小川 雄右（健康増進・行動学）
川上 浩司（委員長、薬剤疫学）
川村 孝（予防医療学）
瀬戸 佳穂里（薬剤疫学）
田中 司朗（薬剤疫学）
田原 康玄（ゲノム情報疫学）
堀部 智久（薬剤疫学）
山崎 新（医療疫学）
和田 敬仁（医療倫理学）